

H28 年度 徳島県自然保護協会・公開講演会

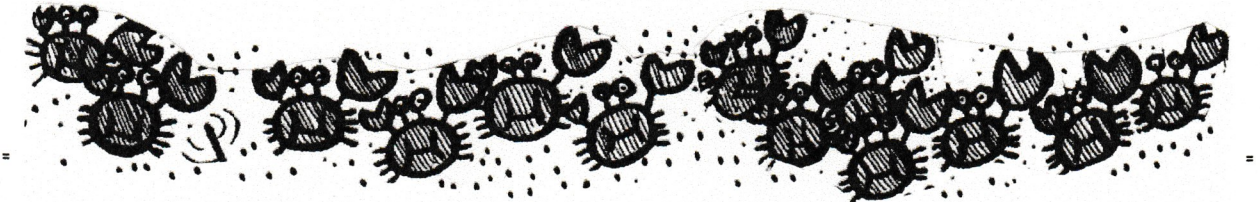
## カニの目録で、吉野川、勝浦川河口干潟の 保全について考えてみましょう！

### 干潟のカニの生態からみた生物多様性保全の意義

講師：和田恵次（奈良女子大学名誉教授 理学博士）

吉野川河口、勝浦川河口および沿岸域は、環境省による「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」（略称「重要湿地」）、「生物多様性の観点から重要度の高い海域」に選定され、また吉野川河口域は「ラムサール条約湿地の潜在候補地」にも選ばれており、国内外において、生物多様性保全の観点からも重要視されている場所です。

今年6月にNHKの『ダーウィンが来た！』に出演された、話題の干潟研究歴40年カニ博士こと和田恵次先生による、カニの目録での干潟の保全の大切さについての講演です。翌日9月18日には、吉野川最河口の干潟観察会を開催します。徳島の自然や生物に興味のある方、ご参加お待ちしております。



日時： 2016年9月17日（土） 14:00～16:00

■場所：ふれあい健康館 2階第4会議室（徳島市沖浜東2-16 Tel 088-657-0190）

■主催：徳島県自然保護協会

■定員：50名

■参加費：無料（事前申込は必要ありません）

■問合せ先：徳島県自然保護協会（森本）Tel 088-632-8727

干潟のカニでは、盛んにはさみ脚を動かす waving display が見られるが、その様式は種ごとに固有であるだけでなく、地域集団間でも微妙に違っている。チゴガニは“バリケード構築”や“巣穴ふさぎ”といった奇妙な対近隣個体のなわばり維持行動を示すが、この行動にも地域集団間で頻度に違いがあり、それは、地域集団のもつ障壁物に対する忌避性の違いに由来するものである。アリアケモドキというカニで、徳島の勝浦川河口の集団は、冬季が繁殖期なのに対して、対岸に位置する和歌山の富田川河口の集団は、夏季が繁殖期になる。このような生態的特性の多様性は、生物の種だけでなく、地域集団も配慮した保全の観点の重要性を示すものである。（わだけいじ）

#### ■和田恵次（わだけいじ）先生プロフィール

1950年和歌山市生まれ 1979年京都大学大学院博士課程単位認定退学 理学博士

京都大学理学部助手、奈良女子大学助教授、奈良女子大学教授を経て2016年退職

環境省「重要湿地見直し検討会」「自然再生専門家会議」委員など

専門は動物生態学、海洋生物学。主な研究テーマは干潟のカニ類の行動、生態、系統進化、保全

生物学。干潟関連の著書として「干潟の自然史—砂と泥に生きる動物たち」（京都大学学術出版

会、2000）、「海洋ベントスの生態学」（日本ベントス学会編、責任編集、東海大学出版会、2003）、

「干潟の絶滅危惧動物図鑑 海岸ベントスのレッドデータブック」（日本ベントス学会編、分担

執筆、東海大学出版会、2012）など